PISA 型読解力が育つ基本スキル
情報を集める能力＝どんな指導で育つか
名前（村上浩一）

一、近くて遠い問題

ここでは例題として、第５学年の次の箇所（指導要領）を扱う。

> ④我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図その他の資料を活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。

子どもたちの読解力を身につける指導としては、身近な問題、つまり「近くて遠い問題」がいいと考える。そこで、九州の５県が接している有明海の環境問題を取り上げてみたい。

二、問題把握

次の指示より始める。

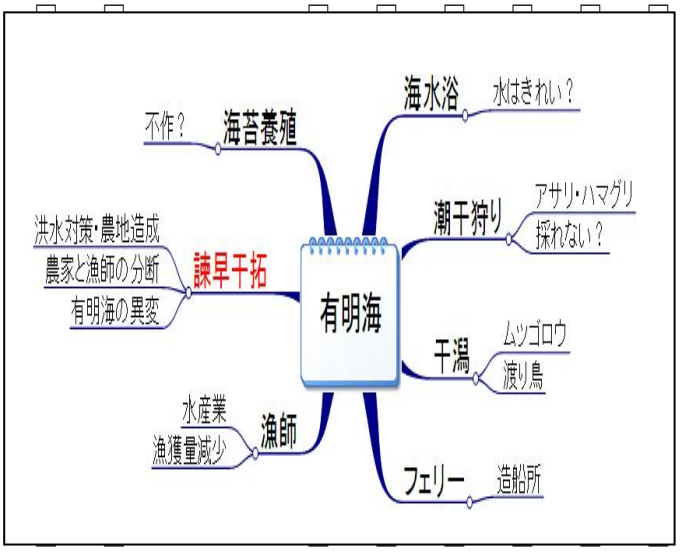
> 指示１：ノート中央に「有明海」と書いて、浮かんでくるイメージをマインドマップとして描いていきなさい。

子どもたちは、次のようなことをリストアップしてくるだろう。「アサリ貝」「潮干狩り」「海水浴」「魚釣り」「フェリー」「ムツゴロウ」□下のようなマップになるだろう。そこで、問う。

> 発問１：最近、これらの漁獲量が激減して、あることが原因ではないかと言われています。あることとは何ですか。

ここでは正解は告げない。これらキーワードのインターネット検索を通して、解決していくことにする。

三、テキスト提示



キーワード検索で、「諫早干拓」問題の存在を知ることになるだろう。テキストとして、ここでは、熊本日日新聞（０７・０４・１０夕刊）の記事を配布する。ここには、概

PISA 型読解力が育つ基本スキル
情報を集める能力＝どんな指導で育つか
名前（村上浩一）

ね次のようなことが書かれている。

> 農相は、調査は慎重にしたいと発言。防災効果を評価し、農業振興にも期待を示した。さらに、不漁については８０年代以前からもあり、干拓だけの影響ではないとした。

そして、問う。□□□□□□□

> 発問２：これらのことは本当なのでしょうか。どんな情報があればわかりますか。

例えば、「漁獲量の変遷」がわかれば、本当のことがわかるだろう。ところが、ローカルな資料は、『国勢図会』ではわからない。そこで、インターネット検索の出番である。

四、ネット検索方法

グラフしか載せていないページが多く表示されてくるようだ。②では、言葉全体を“　”でくくらないと、「のり」と「収穫量」というアンド検索となり、絞り込まれない。③は、問題の本質を探る時に便利な検索法である。④は、イメージとして干拓の写真を見つける最良の方法である。⑤は、各検索結果の文末に表示されているもので、関連するページに飛んだり、過去のページを参照できたりする。⑥は、干拓のニュースや場所を検索する方法である。もっともグーグルアースを使うと、航空写真が入手できるが。

以上、身近な問題をマインドマップから掘り起こし、ネット検索で情報収集する能力について述べてみた。

（熊本市立一新小学校）

- ①アンド検索例：「のり収穫量　有明海　２０００年以降」
- ②完全一致検索例：“ノリ収穫量”」
- ③とは検索例：「諫早干拓とは」
- ④画像検索例：「諫早干拓」
- ⑤関連ページ・キャッシュ検索
- ⑥ニュース・地図検索

①では、「２０００年以降」という言葉を入れないと、２０００年までの